

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和 7 年度第 1 回相模原市在宅医療・介護連携推進会議		
事務局 (担当課)		在宅医療・介護連携支援センター 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 5 0 (直通) 医療政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 2 3 0 (直通)		
開催日時		令和 7 年 9 月 2 日 (火) 1 9 時 3 0 分～2 0 時 5 0 分		
開催場所		W e b 開催 及び 相模原市役所本庁舎 2 階 第 1 特別会議室		
出席者	委 員	2 3 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	1 2 人 (地域包括ケア推進部長、在宅医療・介護連携支援センター 所長、外 1 0 人)		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1 開 会 2 議 題 (1) 千葉市の在宅医療・介護連携推進に係る取組について 3 報告事項 (1) 令和 6 年度在宅医療・介護連携推進事業の実績について (2) 各部会の報告 (3) 在宅医療・介護連携事例等発表会について (4) 在宅医療・介護連携講演会について (5) その他 4 閉 会		

議 事 の 要 旨

1 開 会

2 議 題

(1) 千葉市の在宅医療・介護連携推進に係る取組について

入退院支援の手引き作成についての検討を進めるための研修として、既に手引きを作成されている千葉市在宅医療・介護連携支援センターの久保田氏より千葉市における在宅医療・介護連携推進に係る取組や、入退院支援の手引き作成の経緯等についてご説明いただいた。

(水上委員) 専門職からの相談件数が600件となっているが、割合としてどのような相談が多いのか。

(久保田氏) 医療・介護資源についての問い合わせが多い。次に多いのが、診療報酬や介護報酬に関する内容である。算定にあたって気を付ける点などの問い合わせがあり、調べて対応したり、相談先の案内などを行っている。また、在宅療養の支援方針について、ケアマネジャーや地域包括支援センター、障害者基幹相談支援センターなどからの相談もある。

(水上委員) 医療機関の場合は報酬に関して厚生局や保険医協会に確認するが、報酬に関する相談は介護事業者からの相談が多いか。

(久保田氏) 訪問看護ステーションなどは医療保険と介護保険もあり、件数としては訪問看護ステーションやケアマネジャーからの相談が多い。連携に関する加算の取り方も複雑なので、確定的なことは言えないが、情報の掲載箇所や厚生局への問い合わせ方法などのアドバイスを行っている。

(水上委員) 手引きの作成について、県から市への委託事業とのことだが、政令市である千葉市以外でも同様の事業は実施されているのか。

(久保田氏) 千葉市以外にも、郡市医師会が受託していたケースはある。委託内容は必ずしも手引きを作成するものではないが、入退院支援のルール化に向けた取組を進めていくものであった。

(水上委員) 入退院支援は病院が中心になるが、相模原市の場合、市医師会のほか、市病院協会がある。千葉市では医師会のほか、病院協会等との連携はなされていたか。

(久保田氏) 病院の組織は県単位の協会となっており、市内病院との連携はあるものの、病院全体の連携については難しさを感じている。

(水上委員) コロナ渦において、入退院支援にあたり病院協会なしで医師会だけ

- で仕組みを作るのは難しいと感じていた。リストを作成したことにより、コロナ渦において患者の搬送・転院に生かすことはできたか。
- (久保田氏) 日頃の連携がうまくいった部分とそうではない部分があり、窓口一覧についてはあくまでケアマネジャーと訪問看護ステーション向けのものであるため、病院の転院搬送までは生かせていなかった部分の反省がある。
- (水上委員) 相模原市では当時、入院が困難な状況で自宅療養患者が多くいらっしやった。今後の未知の感染症対策や現在直面している高齢者救急の逼迫等に生かしていけるような、実際に活用できるものを作る必要がある。
- (斉藤委員) 急性期から回復期への情報がうまく伝わっていなかったという中で情報シートのお話があったが、手引きの中には入っておらず、別途作成しているということか。
- (久保田氏) 千葉県が情報連携シートを作成しており、市としてはそれを推奨する立場である。また、現状では国が作成したシートの改訂が早く、市としてはどちらを使っても良いと考えている。
- (斉藤委員) 情報シートはケアマネジャーが病院に提出するシートか、急性期から回復期への転院時に使うものか。
- (久保田氏) ケアマネジャーから急性期へ提出された段階で情報が止まってしまうため、そのシートを回復期へ送っていただくよう推奨している。
- (斉藤委員) 「おひとりさま支援の手引き」について、身寄りのない方の支援は難しさを感じており、取組をされていることが非常に良いと感じた。
- (梅澤会長) 入退院支援の手引き作成に関して、作成に関する意見の主体は医師会で、取りまとめや原稿起こしは市、予算は県からか。
- (久保田氏) 入退院支援委員会は県の所管になるが、手引きの作成は市の在宅医療・介護連携推進事業の予算の中で行っている。中身の議論は医師会や訪問看護ステーション、連携室にリードしていただき、市は会議を実施しながら形にしていった。
- (日高委員) 入退院時のケアマネジャーのシャドーワーク問題について、病院の方が何気なく要求することができないこともあり、手引きがあるとありがたいと思う。自身は医療介護従事者相談窓口で相談を受けているが、近隣他市との交流の中で、他市と跨る時に、ケアマネジャーから送るものや病院から送る情報シートの様式が違い、近隣他市で統一することについても議題に挙がっていた。
- 相模原市と千葉市で状況は違うと思うが、ケアマネジャーから病院、病院同士のシートについて県が統一しているのか。

(久保田氏) シャドーワークについては千葉市でも話題になっており、カスタマーハラスメントに繋がってしまう事例もある。横浜市がリーフレットを作成しており、千葉市でも作る必要があると意見は挙がっている。

シートに関しては県が作成している。元々は脳卒中の連携の会議があり、その中で作成している経過があり、使用している事業所が多いと感じている。一方、それで改訂しにくくなっており、内容が少し古くなっている点は課題であると感じている。

(佐藤委員) 入退院支援意見交換会に所属する団体に地域連携担当者とあるが、MSW以外にどのような職種が参加されていたか。

(久保田氏) 県内の理学療法士会に入っていたと記憶している。そのほか、看護師等にご参加いただいていた。

(佐藤委員) リハビリに関してもツールはあるが、中々末端まで下りていかない課題もあり、このような場の中で我々のような職種が参加しているという情報をいただけたので、情報をリサーチしていきたい。

(久保田氏) リハサマリーが地域に出にくいと感じている。人生会議を考えた時に、回復期リハビリテーション病院で日頃接しているご本人の意向は表出されていても、それが在宅に受け継がれていない点もある。

(内田副会長) 病院運営を見ていて、世の中の9割の病院が赤字と言われており、病院支援も行わなければいけないと考えているが、この取り組みによって病院協会や病院をプロテクトするような働きはあるか。

(久保田氏) 千葉市においても市立病院も含めて経営状態が厳しい中で、病院運営も地域とのつながりの中でやっている。手引きそのものによる支援というのは難しいが、病院からは地域にアピールしていかなければいけないという危機感を感じている。最近の事例では、市内の医療機関から、腹膜透析を勧めたいが対応する訪問看護ステーションが少ないという相談があり、病院に繋げた事例があった。
病院の戦略の中で、在宅医療・介護連携支援センターが寄与できる部分もあると感じている。病院が地域に対する戦略を実施する上での相談が増えてきている。

3 報告事項

(1) 令和6年度在宅医療・介護連携推進事業の実績について

事務局より資料に基づき、説明した。

※質疑、意見なし

(2) 各部会の報告について

梅澤部会長及び水上部会長より資料に基づき、説明した。

※質疑、意見なし

(3) 在宅医療・介護連携事例等発表会について

事務局より資料に基づき、説明した。

※質疑、意見なし

(4) 在宅医療・介護連携交連会について

事務局より資料に基づき、説明した。

※質疑、意見なし

(5) その他

- ・ 廣瀬委員より、誤嚥性肺炎の連携についての啓蒙動画を紹介した。

(廣瀬委員) 誤嚥性肺炎の連携について、在宅医療・介護連携推進会議にご協力いただいているが、今回、誤嚥性肺炎の連携を啓蒙する動画を作成した。これはまだデモ版で、修正をする予定である。病院協会と水上委員の協力をいただき作成している。

誤嚥性肺炎ケアサポートガイドの説明動画についても作成中であり、その中で誤嚥性肺炎の患者を日中に受けていただく病院のリストの作成にも着手している。医師会を通じて在宅医療の先生に情報をお届けしていきたいと考えている。

今後、入退院支援の手引きを作成する際など、病院協会としても協力し、円滑な医療が提供できればと考えている。

- ・ 救急課より、高齢者救急の概要について参考資料により説明を行った。

(梅澤会長) 軽症者は最終診断ではなく、ファーストタッチのドクターによる搬送時点の判断か。

(事務局) その通りである。

5 閉 会

以 上

相模原市在宅医療・介護連携推進会議委員出欠席名簿（別紙）

	氏 名	所 属 等	備考	出欠席
1	石井 和也	公益社団法人神奈川県看護協会相模原支部		出席
2	伊藤 憲秀	地域包括支援センター（中央区）		出席
3	内田 善久	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会	副会長	出席
4	梅澤 慎一	一般社団法人相模原市医師会	会長	出席
5	和田 理江	地域包括支援センター（緑区）		出席
6	菊地 歳光	相模原市ホームヘルパー協会		出席
7	小林 麻衣子	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団		出席
8	小山 仁	地域包括支援センター（南区）		出席
9	斉藤 正和	相模原市医療ソーシャルワーカーの会		出席
10	佐藤 隼	相模原地区訪問リハビリテーション連絡会		出席
11	澤田 弘之	公益社団法人相模原市薬剤師会		出席
12	澤野 将文	相模原市介護老人保健施設協議会		出席
13	下井 麻紀子	相模原市訪問看護ステーション管理者会		出席
14	杉谷 雅人	相模原市認知症疾患医療センター（連携型）		出席
15	田中 雄一郎	公益社団法人相模原市歯科医師会		出席
16	土田 陽子	さがみはら介護支援専門員の会		出席
17	中野 太郎	公益社団法人相模原市病院協会		出席
18	中村 準	相模原市認知症高齢者グループホーム連絡会		出席
19	久松 信夫	学識経験者（桜美林大学）		出席
20	日高 明夫	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会		出席
21	廣瀬 憲一	公益社団法人相模原市病院協会		出席
22	松岡 義人	相模原市小規模多機能型居宅介護事業者連絡会		出席
23	水上 潤哉	一般社団法人相模原市医師会		出席

（敬称略、50音順）